

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大砂土中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の結果を踏まえて、「文法」や「数式」といった基礎的な学力を定着させることが次年度への課題である。基礎的な学力の定着に向けては、今年度と同様にスタディサブリに取り組みたい。今年度は学期初めにスタディサブリの時間を設定したが、次年度は週時程を工夫するなどし、今年度よりも取り組み時間を多く確保する。また、振り返りシートによって、学習内容を定着させることはもちろん、教科ごとにパフォーマンス課題を実施するなど、身につけた知識を活用することで知識の定着を図れるよう授業改善を行っていく。	
思考・判断・表現	全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の結果を踏まえて、「解釈や説明」、「事象間の関連付け」といった思考力の向上が次年度への課題である。思考力の向上に向けては、今年度と同様に「大砂土中アクティブ・ラーニングモデル」に取り組んでいきたい。自力、協働、練り上げ等の学習プロセスに応じた学習活動を各教科で精査し、他者との協働によって自分の考えを練り上げられるよう授業改善を行っていく。また、振り返りシートによって、一連の学習内容を結びつけることはもちろん、単元の最後に学習内容をまとめる活動を設定する必要がある。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> 数学における、選択式の問題の正答率が半数に満たないものが多い。英語における、短答式の問題の正答率が半数に満たないものが多い。 <指導上の課題> 個々の習熟度に応じた指導の時間が不十分である。	⇒ タブレットパソコンを活用し、習熟度に応じた練習問題や調べ学習に取り組む。【週に1度の実施】 振り返りシートを活用し、獲得した知識や技能を次の学習に活かせる場面を設定する。【毎日の授業で実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 数学、英語ともに正答率が半数に満たない。特に記述式の問題の正答率が低い。 <指導上の課題> 学習内容や自分の考えを文章化する指導の時間が不十分である。	⇒ 「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を意識し、自力、協働、練り上げのプロセスを学習活動に位置付ける。【学習内容ごとに実施】 振り返りシートを活用し、授業で学習したことや感想などを記述する場面を設定する。【毎日の授業で実施】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	① 中間期報告と同様に、タブレットパソコンを活用した調べ学習は週に1度以上実施することが出来た。また、学期の初めにスタディサブリに取り込む時間を設定するなど各自の習熟度に応じた学習活動を行うことが出来た。 ② 振り返りシートについても、教科ごとに実施しており、生徒のメタ認知を促し、次の学習につなげることが出来ている。
思考・判断・表現	B	① 中間期報告と同様に、「大砂土中アクティブ・ラーニングモデル」として、自力、協働、練り上げ等の学習プロセスに応じた学習活動を各教科で実践した。 ② 振り返りシートは各教科で実施しており、学習したことや感想などを文章で記述することが出来ている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では全体として埼玉県や全国の平均正答率をやや下回る結果となった。中でも「話し合いの中の発言について説明したものである適切なものを選択する問題」の正答率が低く、埼玉県や全国の平均正答率を下回っており、意見や根拠といった情報と情報の関係の理解が不十分な生徒が多いことが考えられる。 数学では全体として埼玉県や全国の平均正答率を上回る結果となった。埼玉県や全国の平均正答率は上回っているものの、「連続する2つの偶数を文字を用いた式で表す問題」の正答率は半数に満たなかった。	
思考・判断・表現	国語では、全体として埼玉県や全国の平均正答率を上回る結果となった。中でも説明文の内容を解釈することや、本文の内容を要約する問題での正答率が低く、「読むこと」に課題が見られた。 数学では、全体として埼玉県や全国の平均正答率を上回っているものの、正答率は3割程度という結果になった。記述式の問題の正答率が低く、数学的表現を用いて説明する問題に課題が見られた。また、こうした問題では無解答率が高い傾向にあり、解答を諦めてしまう生徒が多いことが考えられる。	

① 結果分析(管理職・学年主任等)

② 詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	1学年では国語で市の平均正答率を上回っているものの社会、数学、理科では市の平均正答率を下回る結果となった。社会の「年表の読み取り」、数学の「一次方程式」、理科の「植物の分類」などは市の平均正答率を大きく下回っている。 2学年では全ての教科で市の平均正答率を下回る結果となった。国語の「文法」、社会の「年表・資料の読み取り」、数学の「図形」、理科の「化石」などは市の平均を大きく下回っている。また、各教科の無回答率が市の平均よりも高い傾向にある。	
思考・判断・表現	1学年では国語、社会、理科で市の平均正答率を上回っているものの数学では市の平均正答率を下回る結果となった。数学では「数学的な解釈や説明」が市の平均を下回っている。 2学年では全ての教科で市の平均正答率を下回る結果となった。国語における「文章の解釈」、社会における「自然条件との関連付け」、数学における「数学的事象の解釈」、理科における「事象の推測」などは市の平均を大きく下回っている。また、各教科の無回答率が市の平均よりも高い傾向にある。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	タブレットパソコン活用した調べ学習は週に1度以上実施することが出来ている。習熟度に応じた練習問題への取り組みについては課題が見られるため、計画的な実施をしていく必要がある。 振り返りシートについては教科ごとに実施しており、生徒のメタ認知を促し、次の学習につなげることが出来ている。	変更なし
思考・判断・表現	B	「大砂土中アクティブ・ラーニングモデル」として、自力、協働、練り上げ等の学習プロセスに応じた学習活動を各教科で実践している。 振り返りシートは各教科で実施しており、学習したことや感想などを文章で記述することが出来ている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)